

文学館だより



令和 7 年 1 2 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 貴 日 高 第 116 号

= 若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year =

令和7年をふりかえる

- 4月 若山牧水記念文学館は開館20年を迎えました。
- 5月 牧水生誕140年/文学館開館20年記念
小田加奈子若山牧水を歌う 小田加奈子コンサートを開催しました。
- 7月 「短歌実作基礎講座」を開講しました。
- 7月 50年の時を経て『若山牧水全歌集』伊藤一彦編が刊行されました。
- 8月 牧水生誕140年を迎えました。
- 9月 牧水生誕140年記念特別企画
「牧水ゆかりの地めぐり」「記念シンポジウム」「交流会」を開催しました。
- 9月 第75回牧水祭を開催しました。

今年は、毎年恒例の事業に加え初の試みや特別企画を開催してきました。支援してくださっている皆さま、ありがとうございました。令和8年も変わらず牧水顕彰に努めてまいります。

短歌実作基礎講座 3回目集う 11. 11文学館にて

今年度開講した短歌実作基礎講座が3回目を迎えました。牧水生誕140年特別企画や牧水祭などを挟んだため、前回開催から2ヶ月以上間が空きました。私は1首詠むのが精一杯ですが、2首以上詠まれた講座生が大勢いらっしゃいました。投稿歌がこちらです。(抜粋)

贅沢な今日の夕食伊勢海老は料理する前絵手紙に描く
夜明け前「おきよおきよ」と子らの声お船出伝説思う八朔
「君」付けて呼んで久しい馴染み客還暦過ぎたと白髪が笑う



今回の学びは「八朔」。「八朔」とは「旧暦の八月朔日を略した言葉」を言います。説明を受け、「おきよ祭り」「お船出伝説」と「八朔」がようやく繋がりました。

合わせて、「七月尽」などを使う「〇月尽」も教えてもらいました。「七月尽」と言えば七月末日のことだそうです。今回の講座は新しい用語を知る機会となり、次回も楽しみです。

伊藤一彦短歌実作講座 日向に集う 11. 19

先月は、「短歌実作基礎講座」に続き、「伊藤一彦短歌実作講座」も開催されました。今回の投稿歌はこちらです。(抜粋) ◎▼は伊藤先生のコメントです

早々とピンク表紙の手帳買う何時でもおいで真っさらの年
◎「何時でもおいで真っさらの年」が前向きで良い。

お小遣い孫はスマホにチャージする 小銭でふくらむ私の財布
◎ユーモラスな歌である。

民謡のベテランにして週に二度教室に行く君は理容師
◎余分な説明がなく、できあがっている歌である。

牛小屋を隔て木犀金と銀におい嗅ぐよに牛も草食む

- ◎「木犀金と銀」・・・新鮮で良い。
- ◎「におい嗅ぐよに」・・・うまい表現である。
- ▼「牛小屋」「牛も草食む」・・・最初に牛を言わずに最後に牛小屋を表現すると良い。



今年度の「伊藤一彦短歌実作講座」は終了しました。今年度提出された皆さんの歌は歌集にして講座生全員にプレゼントいたします。また、来年度お目にかかりましょう。参加したい、一緒に歌を詠みたいと言われる方は来年度のお申し込みをお待ちしております。

牧水生誕140年記念事業 あなたが選ぶ牧水の一首 募集中です

9,000 首を超える牧水の歌の中から我々が伊藤一彦先生が 20 首を選びました。この中から皆さんの投票によって「あなたが選ぶ牧水の一首」が決まるという、今年度最後の企画がスタートしています。

全国どこからでも、どなたでも応募できます。

【「あなたが選ぶ牧水の一首」候補20首】 日向市ホームページをご参照ください

【投票方法】 次のいずれかの方法でご応募ください。

- (1) 投票フォーム <https://logoform.jp/form/gfqE/1274123>
- (2) 郵送
- (3) FAX
- (4) Eメール

※郵送、FAX、Eメールの場合、氏名、年齢、住所、電話番号、選んだ一首の番号(1つのみ)を記載いただければ、様式等は問いません。

【応募先】 〒883-8555 日向市本町10番5号

日向市教育委員会 文化・生涯学習課 若山牧水・文化振興係

FAX:0982-54-2189

Eメール:bokutan@hyugacity.jp

【投票締切】 令和8年1月31日(土曜日)

※郵送の場合、当日消印有効



投票いただいた方の中から、抽選で 10 名様に伊藤一彦先生の著作がプレゼントされます。

詳細は、日向市ホームページをご覧ください。

応募に関する問い合わせは日向市教育委員会 文化・生涯学習課 若山牧水・文化振興係（同上応募先）にお願いします。

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

わが生きて重ねむ年はわかねどもいま迎ふるをねもごろにせむ

わがいきて かさねんとしは わかねども いまおかうるを ねもごろにせん

【訳】 私がこれからも生き続けられて、重ねてゆく年がどれくらいあるかわからないけれど、今迎えるこの年を丁寧に迎えよう。

大正 10 年暮れ、年賀状に書いた歌 5 首のうちの最後の一首。「静かなれ心」と題し、「年いつしか暮れおとするに驚きて惶しく刷らせたる年賀状の端に書きつけし歌。」と詞書がある。その他の 4 首は次の歌である。

年ごとに年の過ぎゆくすみやかき覚えつつ此処に年は迎へつ
寄る年の年ごとにねがふわがねがひ心おちみて静かなれかし
去年（こそ）あたり今年にかけていよよわが静かなれとふところは暮る
あさはかのわれの若さの過ぎゆくとのしみて待つところ深みを

新年を迎えるにあたり、日々の暮らしや日々の思いがいかに大切であることを牧水は詠んでいる。

参照 『若山牧水全歌集 伊藤一彦編』 『名歌即訳若山牧水』

お知らせ

- 1 第15回青の國若山牧水短歌大会表彰式 12/13(土)13:30～ 会場：日向市中央公民館
- 2 UMKテレビ宮崎 12/29(月) テレビ宮崎開局55周年「牧水のみち ～堺 雅人と吉田 類が愛した歌人～」
- 3 NHK宮崎放送 11/27(木) てげビビ 歌人 伊藤一彦先生インタビュー ぜひ見逃し配信を
- 4 ラジオ深夜便 11/28(金) 若山牧水の生誕地短歌県・宮崎から 伊藤一彦先生、久永草太さん出演
ぜひ聞き逃し配信を